

## 開倫塾の創業に至る経緯と現代日本の教育の課題

「一生勉強、一生青春」

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

- (1) 本日は歴史と伝統のある太田南ロータリークラブの5月例会卓話講師としてお招きいただき、有難く感謝申し上げます。
- (2) 私の親友でもあります幹事の小暮正男さんの御要請により、本日は「開倫塾の創業に至る経緯と現代日本の教育の課題」をメインテーマに、サブテーマを「一生勉強、一生青春」としてお話をさせていただきます。
- (3) 太田南ロータリークラブの皆様は、毎月様々な方々から有意義なお話を長年にわたってお聴きのことと存じます。私のお話が皆様の活動や太田南ロータリークラブの活動に少しでもお役に立てればとの思いで、与えていただきました40分という貴重な時間を一所懸命にお話させていただきますので、どうかよろしくお願い申し上げます。
- (4) 簡単なもので恐縮ですが、皆様がメモをお取りにならなくてもよいように、このレジュメを用意させていただきましたので、御参考までに御覧いただければ幸いです。

### 2. 開倫塾の創業に至る経緯

<創業に至る経緯>

- (1) 創業は1979年です。当時、慶應義塾大学法学部の附属機関である司法研究室の研究生であった私が、29歳の時に足利市の郊外、百頭町に二間続きの借家をお借りして創業いたしました。
- (2) なぜ学習塾を始めたのか。慶應義塾大学法学部法律学科に在籍中、犯罪の原因と対策を研究する刑事政策の研究会(ゼミ)に所属していた私は、日本に被害者学を紹介し、被害者救済制度の確立に尽力なさった宮沢浩一教授に連れられ、ゼミ生たちと日本国中の矯正施設(刑務所や少年院など)を視察。多くの刑務所長や受刑者教育担当の刑務官の先生から、「きちんと勉強

していれば、このようなところに来なくても済んだ人ばかりなのに」と、学校や家庭、社会での教育の大切さを教えられました。

(3) 司法研究室の研究生をしていたのは、司法試験の受験勉強をするためです。受験勉強をしながら、アルバイトとして東京や地元の足利市内外で予備校や学習塾の講師を毎日のように行い、家庭教師も週に 10 人以上頼まれ、ほとんど休みなく小学生や中学生、高校生を教えるようになりました。

(4) 司法試験にもなかなか合格せず、ちゃんとした仕事をしなければと将来を考えました。刑務所などで教えていただいて基礎教育の大切さを痛感し、また、それまでにやったことがあるのは学習塾や予備校、家庭教師のアルバイトだけでしたが、教えるのがとても楽しかったので、学習塾を始めることを決意した次第です。

(5) 有名大学受験浪人生を教える予備校の先生はとても勉強になり、また、受講生は皆熱心でそこで教えることはとても楽しかったですが、私以上に授業の上手な方は当時から沢山おりました。北関東のような地域社会で最も求められるのは、小中高生を対象とする学習塾かなと考えました。

(6) 家庭教師を専門にやっていた時期もあり大好きだったのですが、家庭教師はすべてやめさせていただきました。そして、セミナー方式の学習塾からスタートし、個別指導も併せて行うようになり、本年で 32 年目に入ります。

(7) このような経緯でスタートした開倫塾でありますので、数年前に栃木市教育長を通じて栃木刑務所の受刑者への基礎教育のために講師派遣を依頼された際も、「宮沢浩一先生の下で、刑事政策の勉強をした法学徒として、受刑者教育の支援をさせていただくことは名誉なこと」と、開倫塾の創業の経緯に沿った企業の社会貢献活動の一環として快諾させていただきました。刑務官の先生方や開倫塾の講師の先生方、塾長室のスタッフの皆様の協力のもと、3 年目に入りました。

(8) NGO であるユネスコ活動の全面的支援や公立学校教員の社会体験研修の受け入れはじめ様々な活動を、社会貢献活動として行っております。

### 3. 現代日本の教育の課題

#### (1) 日本の学校教育は世界最高レベル

OECD(経済開発協力機構)が2000年から3年ごとに行っているPISA(15歳時の学習到達度調査)の結果、日本は常に世界最高レベルです。

\*但し、一位は、日本、フィンランド、上海と入れ替わっています。

阪神淡路大震災の時も、また、今回の東日本大震災の時も、日本人の行動は高く評価されました。

(ア)このような事態が発生した時に、他国では通常発生する強奪や略奪、殺人や傷害、暴行事件は皆無に近いようです。

(イ)どんな状況の下でも、人々は秩序正しく、たえず弱いものを優先、自分の生命よりも他の人々の生命を優先なさっておられます。よいことをしても自慢することのない「陰徳」の極致を、多くの人々が行っておられます。徳性の高い人格者の行動を、多くの日本人が実際に行っておられます。

(ウ)これは、日本の教育の成果、特にきめ細かな学校教育の成果と私は考えます。

(エ)「学科の勉強」の他の学校での様々な活動(登下校指導、当番、学級会活動、委員会活動、朝礼、部活動、運動会、文化祭、遠足、修学旅行)などなどの「教科外教育活動」の成果であると考えます。「かくれたカリキュラム(Hidden Curricullam ヒデウン・カリキュラム)」の成果であると考えます。

(オ)「家庭教育」「社会教育(育成会活動、様々なスポーツ活動、習い事などを含む民間教育)」の成果でもあります。

(カ)日本人は世界で最も質の高いきめ細かな教育を受けていると私は考えます。

\*学校の先生の労働時間はOECD加盟国中一番長い。その反面、授業時間はOECD諸国の中で一番少ないようですが...

\*「社会教育」も世界で最も熱心に、また、きめ細かに行われているものと私は考えます。

#### (2)但し、学校教育の課題も多いのも事実。

学校の先生は、戦後しばらくは米国にならい大卒者を登用したので、志が高くレベルも高かったのです。

しかし、現在は、多くの国で大学院修士課程修了者が小学校、中学校、高校の先生になっています。校長は博士号を持っている方が多いようです。

\*日本では高校の先生ですら大学院修了者は約10%です。

日本の教員養成課程(教師教育制度)に問題があります。

(ア)履修届を出せば誰でも「教員養成課程」が履修でき、必要単位を履修すれば「教員資格」が取得できる。

\*多くの国では、教員としての適性がないと教師教育は受けさせません。教員養成の対象とはなりません。

(イ)「教育実習」は履修者が多いため期間や内容に問題がある場合が多い。

(ウ)大学の教員養成課程の教員の多くは、実務経験、つまり学校での実務経験がない。ピアノの弾けない人がピアノを教えられないのと同じ状況。

学校の教員にも多くの課題があります。

(ア)1年間の授業、1学期間の授業、1か月間の授業、1週間の授業、今日の授業をどのように行おうかと「授業の設計」をした上で、「レッスンプラン(教案)」を授業ごとに用意する先生は少ない。

(イ)毎日の「授業の予習」を十分にしてから授業に臨む先生は少ない。

(ウ)先生としての専門的知識や情報、技術を常に学び続け、ブラッシュ・アップし続けている先生は少ない。

(エ)担当する自分のクラスに、授業補助者や教育ボランティアを入れたがらない先生が多い。

(オ)教え方の技術向上に励み続ける先生が少ない。

(カ)30代の校長は皆無。退職寸前の校長が大半。

### (3)これからの日本の教育の課題

高校卒業後に8割の生徒が進学する大学、短大、専門学校などの「高等教育」に耐えられるだけの教育を高校が行うこと。

(ア)AO入試、推薦入試で入学する学生だけではなく、入試科目しか勉強しないで入学する学生もいるため、「初年度教育」「リメディアル教育(補習教育)」が求められる。

(イ)学力や志が低いために、大学を続けられない学生も多出。

(ウ)十分な能力がないため、「雇われる能力」に欠け、就職できない。

一度社会に出た人のための「コミュニティ・カレッジ」や「専門職大学院」での再教育。

(ア)コミュニティ・カレッジ

(イ)MBA(経営管理)

(ウ)MOT(技術経営)

志の高い先生、教え方の上手な先生を国を挙げて養成すること。

50歳過ぎの人のためのいつまでも若々しく生きるための本格的教育。

図書館の365日早朝から夜遅くまでの長時間稼働で、学生や市民に学習する場所を提供すること。空テナントや空スペースを活用した街角図書館の積極的推進。

外国人への日本語教育、日本人への外国語教育。

### (4)教育の成果を決定する要因

本人の自覚

教師の力量(本人の自覚を促すのも教師の力量)

### (5)教育機関の質

カリキュラムの質

教師の質

マネジメントの質

(6)  $\text{学習効果} = \text{本人の自覚} \times \text{学習方法} \times \text{学習時間}$

自分の弱みと強みを認識した上で、何のために生きるのか、何のために働くのか、どんな仕事に就きたいのか、何のために学ぶのか、何のために進学するのか、進学して何をやるのかなど「本人の自覚」が十分であれば、「学習時間」は自ら長くなり、「学習方法」についても創意工夫するようになり、「学習効果」も高まると私は考えます。

(7) 「効果の上がる学習方法」とは - 御参考までに「学習の3段階理論」を紹介させていただきます -

学習を「理解」「定着」「応用」の3つの段階に分けて、手順(プロセス)を1つ1つ丁寧に踏むことにより、学力を確実に身につけて成果を出すことを目指す「理論」です。

「理解」とは、うんなるほどとよくわかること。

「授業」...手を机の上に置き先生の目をよく見て、真剣に授業を受ける。

(ア)おしゃべり(私語)、立ち歩き、携帯電話、ボーとしていること、欠席、遅刻、早退は、「理解」を妨げるので避ける。

(イ)ノートはどんどん取る。ノートが取れることは能力(仕事はメモで覚える。学校でノートを取るはその練習)。

「自習」...自分でも「理解」はできる。

(ウ)わからないことばが出てきたら、わからないことは「気持ちが悪い」と思い、どんどん辞書を引く。

(エ)読めない漢字は「漢和辞典」を引いて調べる。

(オ)辞書で調べたことばとその意味はすべて科目別のノートにメモし、すべて覚え、ことばの数、語彙数を増やす。

(カ)辞書で調べてもわからない語句や内容は、「各教科の学年別参考書」を辞書代わりに用いて調べる。

「定着」とは、「一度うんなるほど」と「理解」したことをスミからスミまで身につけること。

(ア)何も見ずにスラスラ言えるようになるまで大きな声を出して読む練習、「音読練習」をする。

(イ)何も見ずに楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をする。

(ウ)問題を見た瞬間にパッパッと正解が出せるようになるまで「計算・問題練習」をする。

\*この3つの練習を「定着のための3大練習」と呼んでいます。「練習は不可能を可能にする」。この3大練習は学力を飛躍的に上昇させ、「多様な選択肢のある人生」を誰にでも導きます。

「応用」とは、定期テストや入試、検定試験や国家試験、就職試験などありとあらゆる「テストでよい点数を取ること」「社会で役立つこと」。

・テストでよい点数を取るためには、過去に出題された問題、つまり「過去問」の5年分以上を5回以上繰り返して練習すること。

(7)これからの社会で求められる鍵になるような基本的能力「キー・コンピテンシーズ」とは  
知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力(知識基盤社会)

多様な集団で交流する能力 (国際化社会)

自律的に活動する能力 (少子高齢化、地球温暖化など課題山積社会)

\* ~ の能力の前提となる能力

読書による思慮深さを身につけていること

- 新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力を身につけていること -

学び方を学ぶ(Learning To Learn)能力を身につけていること

3 . おわりに - 私の好きなことば -

(1)教育ある人とは(死ぬ前の日まで)勉強し続ける人 (ドラッカー先生)

(2)いつまでも若々しく生きる (中村天風先生)

(3)一生勉強、一生青春 (相田みつを先生)

(4)健康第一(身体健康、心の健康)

(5)自然と精神 (ベイトソン先生)

(6)練習は不可能を可能にする (小泉信三先生)

皆様の御健康と御活躍、太田南ロータリークラブの御発展を御祈念申し上げます。  
御清聴を感謝申し上げます。

以上